

認定看護師教育基準カリキュラムの概要

(特定行為研修を組み込んでいる教育課程：B課程教育機関)

分野	新生児集中ケア
作成年月	平成 31 年 3 月
【趣旨】	
<p>新生児集中ケア分野を取り巻く社会的ニーズの変化に対応しより社会に貢献できるよう、対象を極低出生体重児から後期早産児(Late preterm 児)とし、支援の対象となる期間も急性期だけでなく退院支援も視野に入れた新たな基準カリキュラムを作成した。同時により専門性の高い知識・技術を用いて、看護職が主体となり新生児の回復や重症化予防および問題解決を実践するための高度な臨床推論力・病態判断力を強化できるよう、特定行為研修を組み込んだ。組み込む特定行為区分は、後期早産児(Late preterm 児)のケアや早産児の栄養・水分管理を主体的に実践するために「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」と、ハイリスク新生児や気管カニューレを挿入する児の呼吸管理や在宅移行支援に活かせるよう、「呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連」とした。</p>	
【組み込む特定行為区分】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」 ・「呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連」 	
【詳細】 〈 〉は単元、『』は新たな基準カリキュラムの教科目、「」は現行の基準カリキュラムの教科目を示す	
<p>1. 認定看護分野専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『子どもの権利(15 時間)』『子どもの成長・発達(15 時間)』『子どもと家族の理解(15 時間)』『社会資源と多職種連携(15 時間)』は、新生児期に限定せずより広く対象を理解すること、小児関連の専門領域間の連携を強化することなどを目的に、小児プライマリケア分野との共通学習内容として設定した。 ・『新生児集中ケア概論』は、現行の内容に新生児集中ケア領域の対象及び実践の場を追加し、新生児医療・看護を取り巻く社会的ニーズの変化や、それに伴い新生児集中ケア認定看護師に求められる役割を理解する構成とした。 ・『ハイリスク新生児の特徴と病態生理』、『ハイリスク新生児の看護』は、ハイリスク新生児に特徴的な病態生理を理解し、ハイリスク新生児の全身管理が主体的に実施できる知識・技術が身につけられるよう、「フィジカルアセスメント」、「新生児集中ケアにおける臨床薬理」、「安全管理」、「新生児の病態とケア」、「新生児集中ケア技術論」「新生児集中ケア方法」の内容を整理し、フィジカルアセスメントや蘇生処置等の演習を含めた学習内容を設定した。 ・『ハイリスク新生児の家族形成支援』は、「ハイリスク新生児の親の理解」に加えて事例検討を通してハイリスク新生児の家族形成支援の方法を学ぶ構成とした。 ・『退院調整と社会資源の活用』は、新生児特定集中治療室からの退院調整、在宅移行支援が実施できる知識・技術が得られるよう、退院支援計画の立案から事例検討を通じた退院困難事例への対応方法まで一連のプロセスが理解できる構成とした。 <p>2. 統合演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習での受け持ち患者のケースレポートの作成と発表とした。 <p>3. 臨地実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の展開を通して、新生児集中ケア認定看護師のケア対象が拡大し、急性期から退院支援までの一連のプロセスで果たす役割の理解ができるよう、ハイリスク新生児の入院時から安定化するまでのケア(1 事例以上)、ハイリスク新生児又は医療的ケア児の退院調整・在宅移行支援場面の見学(1 事例以上)とした。 ・ハイリスク新生児の蘇生を主体的に実施できるよう、Late preterm 児の出生直後の蘇生処置(保温、体位保持、気道開通、皮膚乾燥)の実践(1 事例以上)とした。 	